

施政方針から

夢を語り、挑む都市づくり

～対コロナ戦略、インフラ整備推進戦略、未来の都市づくり戦略～

3月3日、令和4年第1回津市議会定例会の開催に当たり、前葉泰幸市長が施政方針を述べました。今号では、その主な内容を掲載します。なお、施政方針の全文については、津市ホームページでご覧いただけます。

津市 施政方針



感染対策に万全を期すると同時に 将来に向けた都市づくりを進める

新型コロナウイルス感染症が世界を揺るがし始めてからはや2年が経過しました。感染拡大によって社会や生活様式が変わっただけではなく、**私たちの価値観や心の在り方、生き方**も大きな影響を受けています。コロナ禍前では当たり前であったことが当たり前ではなくなり、想像もしなかったことが当たり前になりました。**サプライチェーンの脆弱性**や**ICT活用の未熟さ**など、隠れていた課題が顕在化し、これらの再構築を余儀なくされました。当初抱いていた「ワクチンができればコロナ禍前の暮らしに戻る」という思考は改めざるを得なくなり、新型コロナが変えた**新しい社会や生活様式**に対応するニュースタンダードが未来に向け確立しつつあります。**リモートワーク**や**オンライン会議**など働き方にも新しいスタイルが生まれ、今や日常となるなど、**社会の大変革**を迎えています。



施政方針を述べる前葉泰幸市長

感染動向の先行きは不透明です。コロナ対策は引き続き最優先の課題ですが、**未来の都市づくりのビジョンを描く**ことを先送りしてはなりません。目の

前の**感染対策に万全を期すると同時に将来に向けた都市づくりを前に進めていく**、これは行政の当然の使命であり、責務でもあります。

都市づくりに向けて大切なことは、**夢を言葉にすること**です。

困難なプロジェクトを「夢」で終わらせないためには、**事業化への意欲を力強く表明し、行動に移す**必要があります。これまでも実現への道筋が見えない段階から、掛け声倒れとの批判も甘んじて受ける覚悟であらゆる場面で事業の必要性を訴えてまいりました。声を上げることでプロジェクトへの関心が高まり、問題解決に向けた知見が集まり、行政内部からも障害を乗り越える方策が生み出され、道が開かれます。

「夢を語り、挑む都市づくり」、これを令和4年度の津市政のテーマに掲げ、全力を尽くします。

具体的な取り組みとして 3つの戦略を展開

戦略1 対コロナ戦略

新型コロナウイルスワクチン接種事業

昨年、医師会をはじめとする医療関係者との綿密な協議や集団接種における委託業者との連携、国や三重県とのワクチン供給に係る折衝を行う中で、津市は企画、調整、管理を総合的に担い、最前線に求められる「現場力」を発揮し、医療関係者等との信頼関係を構築しました。3回目接種については、当初より、**個別接種と集団接種を合わせて週2万回の接種体制**を準備することができました。2回目接種から8カ月後であった接種間隔の**6カ月への前倒し**